

## 上にあるものを求めて

(コロサイ三・一〜五)

金曜日のこと。ちよつと恥ずかしい思いをした。朝起きたら、頬が腫れてしまつていたのだ。おたふくに罹つたわけでもない。「たぶん、これが原因だろう」と言う検討はついていたのだが、病院に行き、理由ははっきりしたことにより、何か吹っ切れた気分になつた。そうすると面白いもので顔が腫れていてもカッコいいの悪いのと言わずに、予定通り用事を済ませたり、買い物にも出かけられた。実は頬が腫れるのは今年に入つて三度目。今までは「しかたがないな」と先送りにしていた治療もする事に決めた。

思うにこの経験は何かしらクリスチャンの生き方にも通じるところがある。臍んだものを後生大事にしまいこんで抱えたままでは決して良くならないし、神もそれを喜ばれないのである。

以下にパウロがコロサイにある若い教会に宛てた手紙から、「上にあるものを求めて生きる」ことと理由と具体的な生き方について学びたい。

### 一、上にあるものを求める理由

パウロが「上にあるものを求なさい」と言

う根拠はキリスト者の性質によつて、キリスト者はキリストによつて、彼と共にある人生に変えられた。だから上にあるものを求めるのである。

皆知つていことだがキリストがこの地上に來られたのは何よりも罪人である私たちを救うためであつた。神は御子を遣わされ、御子イエスは私達の罪の身代わりとなつて十字架にかかつて死なれた。パウロは大胆にもここで神の前に罪を悔い改めて、イエス・キリストを救い主と信じた者は「すでに死んでおり」と言つている。しかしこれは説明が必要だ。キリスト者は何に死んだのか。それは罪である。キリストが私たちの身代わりになられたゆえに罪人である私は死んだのだ。しかし物語はそれで終わらない。聖書は神は死なれたキリストをそのままにして置かれず、よみがえらせて下さつたことを宣言し、それによつてキリストと共にあるものもまた、よみがえらされたと言張している。つまりイエスを主と信じる者はキリストのものとなされた新しい命に生かされているのだ。

二章一二節を読んでみよう。洗礼は主イエス・キリストにあつて、罪に対して死に、神に對して生きる者とされ、教会の枝として加えられる印である。洗礼式において、全身が水の中に沈められることは

キリストと共に死ぬことを、そして水から上がつてくることはキリストと共によみがえつたことを示している。つまりキリスト者の「生」とは「私はキリストと共に十字架につけられた、生きてゐるのは、もはや、わたしではない。キ

リストがわたしのうちに生きておられる(ガラ二・二〇)」なのである。さらにキリストは再臨の主である。これは未来に属することであり、私たちの希望である。キリストとともに生きる者は未来においても、なお主と共に生き、栄光の内にあるものとされるのである。

このようにキリスト者とは古い自分に死に、キリストのいのちに生かされ、更に死んでも生き、永遠のいのちの栄光に向かうべく新しく造られたものであり、それゆえに、求めるのは上にあるものでなければならないのである。

### 二、上にあるものとは何か？

しかし、上にあるものとは具体的には何を指すのか。二節の「地上のものを思はず、天にあるものを思ひなさい。」と言う言葉からはそれが地上のもの、即ち今まで生きてきた価値観とは相反するものであることが解る。しかしパウロは五節と十二節においてそれを更に明らかにしている。上にあるものとは「深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容(十二節)」であり、地上のものとは「不品行、汚れ、情欲、悪欲、むさぼり(五節)」であり、それをきつぱり捨ててしまひなさいとパウロは命じているのだ。つまり一度キリストの復活のいのちを体験した者はキリスト共に生き続ける事により、再臨の主が來られる日まで罪の奴隷に舞戻つてはいけぬのである。しかしある人はなお言う

かもしれない。「天にあるものはどれも難しく、私には到底出来ません」と。しかしそれでも私

たちはそれを求めなければいけないし、求めずにはおれないはずである。なぜなら「上」あるいは「天」には神の右に着座され、全ての支配と權威を受けたキリストがおられるからだ。またキリストのうちには知恵と知識との宝がすべて隠されており、キリストのうちこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとつて宿つて居るのだ。だから私たちはキリストを見て、上を目指していくべきなのである。

\* \* \*

肉の欲に生きるではなく、御霊によつて歩むために、御霊に満たされるように私達は祈る。ある祈り会で、御霊に満たされるように、まづ私の内にある罪を示して下さいと祈つた。するとある姉妹が、「私は正しい事をして来たと思つていましたが、今私は愛がなかつた事を示されました。」

言つて罪の悔い改めに導かれた。

祈り終わった時、姉妹は「私はこの祈りを通して喜びが与えられました。これからは家族に對して愛をもつて仕えていきます。」と語られた。彼女は悔い改めて、自らの罪を告白し、それを捨て去つたので天にある喜びを我がものとしたのである。

天を見上げ、イエスを見つめ、上にある素晴らしいものを求める人生を歩もうではないか。そのためにイエス・キリストは來られたのだから。

(ベテルキリスト教会牧師 大坂智子)